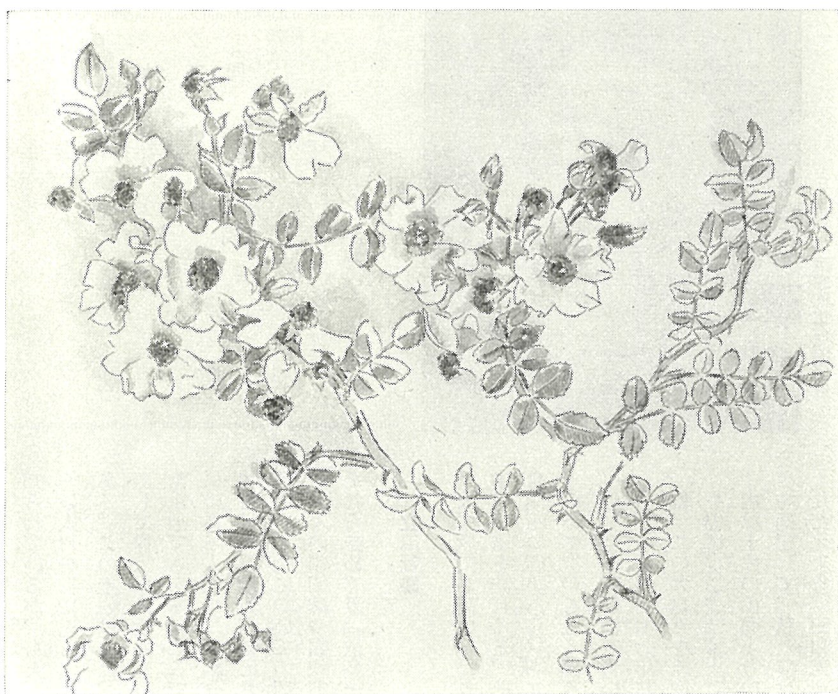




えと文

桜井 旭

北 山

たとえて言えば北山は梅の花。洛南の山は桃の花のようだと桜井がよく言う。全くその感がする北山には香がある、きびしさがある。黒々とした杉の木立のちのこすえに日雲の飛ぶ冬の晴れた日の北山は誠に印象深いものの一つである。

四季それぞれの良さがあり、ちがった植物が、植林された杉の根もとに花を咲かせていたり、実っていたりしている。残雪の中にルビーのような「冬山いちご」をみついたり、「山ルリ草」のびっくりするようなコバルトの群生に出あったりする。

持って帰って庭に植えても枯れてしまったり、とんでもない色になってしまったり。何とかこのかれんな美しさを残したいと願って絵に書いてみるが目的への到着はとても、とても遠い。

(平安女学院院長桜井忠一夫人)